

第 38 回青森県薬剤師会学術大会開催

生涯学習委員会 上田寿夫

令和元年度の学術大会が去る 11 月 3 日（文化の日）、ホテル青森を会場に開催されました。今回のテーマは『保健・医療・介護・福祉連携と薬剤師』～人として尊重されるケアの在り方を考える～ と題され、199 名（会員 168 名、非会員 6 名、学生 18 名、他）の参加者が集い、研鑽を積みました。

特別講演には、西片医療福祉研究会代表であり、認定医療社会福祉士で有られる山田美代子先生による『保健・医療・介護・福祉連携と薬剤師』～ミクロ・メゾ・マクロの視野をもった連携・協働を中心に～ というテーマでご講演頂きました。人（患者）、家族をどのようにとらえるか（ミクロ）という理論の解説から始まり、支援者とクライアント（患者及び家族・医療従事者等のチーム医療）の関係性と倫理問題、保健・医療・介護・福祉機関とのネットワーク連携（マクロ・メゾ）について MSW としてのご経験を交えてお話し頂きました。また関係機関同士の協働の在り方として、クライアント、専門職、実践現場、地域社会の全ての尊厳が保持される体制（マクロ）であるべきで、我々薬剤師にはミクロ・メゾ・マクロの視野で専門性を駆使し安全安心を保障する支援に力を発揮して頂きたいとご講演を頂きました。

ランチョンセミナーは 2 演題、会場ロビーでの展示は青森県だし協議会による「だし活」商品の試飲や販売、各ベンダー・ディーラーによるシステム機器・調剤支援機器・レセコン機器等展示、説明が行われ多くの来場者で賑わっていました。

ポスター発表は 5 演題あり、今回は示説を行わず、演者の立会時間を長く設け、参加者もじっくりポスターを吟味した上で、演者に質問や討議を行うことができたようです。青森大学薬学生の発表もあり演者も緊張しながらも質問に答えていました。

口頭発表は 6 演題あり、内 2 題青森県薬剤師会としての事業報告もされ、薬剤師会事業の概要と報告、今後の課題も示されました。他保険薬局勤務、病院勤務の薬剤師の発表があり、お薬手帳の活用、病院での薬剤プロトコール導入、周術期のおくすり確認外来の取り組み、院外処方箋における検査値印字の現状と課題について、参加者と活発な質疑応答、意見交換がなされました。

学術大会は、青森県薬剤師会会員・青森県病院薬剤師会会員・薬学生に日常の業務の中で生まれた、クリニカルクエスションや気付き・ひらめきを気軽に発表し、参加者との議論の中で研究を練り上げ、論文投稿への足がかりにしたり、自分の工夫や地域での取り組みや問題提起などに活用して頂きたく、来年度も多くの発表や参加をお待ちしております。来年度は 2020（令和 2）年 11 月 15 日（日曜日）ホテル青森での開催が決定しています。



山田 美代子氏



木村 隆次会長

